最終的な避難所同行の実態

ペットを同行している避難所
（4月30日）

	計	犬	猫
避難所	11箇所		
飼育者数	36人（16組）		
ペット数	38頭	37頭	1頭

日々変化しているのでなかなか統計を取るのが難しかったのですが、4月30日というのは仮設住宅に移る直前ですがその時の状況です。避難所が11箇所、38頭のペットが同行していました。

避難所におけるペットの取り扱い
（4月30日）

人とペットの生活形態	避難所数
ペット同伴を許可	4
外でテント暮らし	2
ペット専用係留場設置	2
ペットのみ車中	2
人とペットが車中生活	3

その時のペットの取り扱いがどうなっていたかを表にしました。ペットが家族と共に教室に入れてもらっている場所もありました。体育館の倉庫で家族と共に暮らしているペットもいました。その他、専用の係留施設や車中生活等様々でありました。

様々なペット同行避難の形

このように車中だったり外のテントに入れられたりしていました。

車中生活の方にテント設置

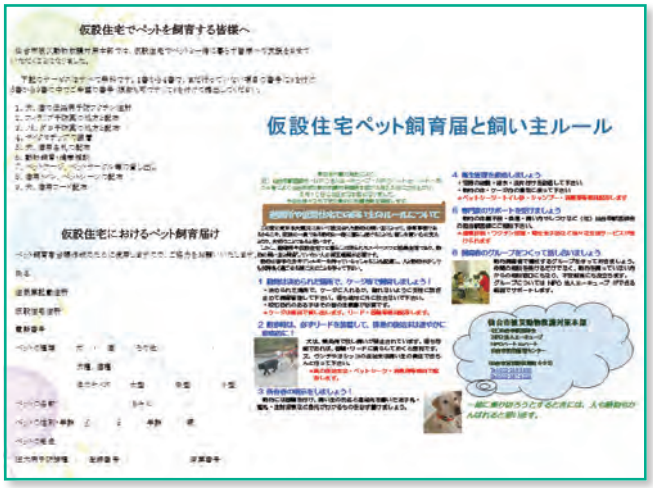
車中生活の方はロータリークラブに要請して、先程岩手のお話しでもでましたシェルターボックスをいただきました。犬と共に生活できるように学校の校庭にテントを立てて、個別テントという形で生活できるようになり非常に喜んでいただきました。

仮設住宅で動物と共に暮らす飼い主支援

＊応急プレハブ仮設住宅では、ペット飼養が可能となった。

＊応急プレハブ仮設住宅入居説明会において、ペットと共に暮す予定の飼い主に対し、周辺配慮の必要性を訴え、ペット飼育届を提出頂いた方に様々な支援が受けられることを伝えた。

＊殆どの方が「飼育届」を提出し、飼育実態が把握でき、 獣医師会・ボランティア協働での様々な支援が可能となった。

＊但し、民間借り上げ住宅のペット飼養者把握及び支援は、申出があったものに留まった。

この後仮設住宅に入って行きました。仙台市では、応急プレハブ仮設住宅ではペット飼養が可能となりました。そのために仮設入居説明会で、ペット飼育届を提出していただければ様々な支援が受けられることを伝えて、実態が把握できるようになりました。同時にその時点で仮設におけるマナー啓発をすることが出来ました。